

2年B組 国語科 単元設計・学習指導案

指導者 細川 美保

1 日時（場所） 2月1日（月） 10:50～11:40（2年B組教室）

2 単元設計（単元名：詩を読もう（第2学年 C読むこと））

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

○問題の解決に向け、自ら考え、見通しを持って行動する力

○自分の気持ちや考えを表現し、伝える力

(2) 単元目標

○意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

○複数の情報を整理しながら言葉の意味について考え、内容を解釈することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)イ

○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、
思いや考えを伝えようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 本単元における言語活動

詩を読み、考えたことを伝え合う。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(2)イ）

(4) 重点目標

<本質的な問い>

言葉とは、どのようなものなのだろうか。

<永続的な理解>

人は、言葉で考え、表現する。また、言葉によって自分や他者、物事を理解している。言葉には意味があり、それによって様々な関係や世界を認識する。しかし、そのことが当たり前の世界で生きている私たちは、言葉そのものに目を向けることはあまりない。

詩の言葉は、短く、厳選され、省略も多く、さらに多様な表現技法が使用されている。詩の学習を通して、言葉そのものに目を向け、言葉が持つ意味について他者と多様な意見を交流しつつ解釈に向かうという学習を行う中で、言葉について考えることができる。そして、言葉のより豊かな使い手となることが、持続可能な社会の担い手として生きていく素地を育てることにつながる。

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 (2)ア	複数の情報を整理しながら言葉の意味について考え、内容を解釈している。 (C(1)イ)	進んで詩の内容を解釈し、学習課題に沿って自分の考えを表わそうとしている。

(6) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
現在、日常生活のみならず学校生活の中でもICTを使ったコミュニケーションが増えてきています。簡潔でわかりやすい表現が求められるとともに、言葉によるトラブルも多くなっています。では、そもそも、「言葉」とは何なのでしょう。 『帰途』に「言葉なんかおぼえるんじゃなかった」とありますが、作者が「言葉」をどう捉え、なぜ「言葉なんかおぼえるんじゃなかった」と考えたのか、第1連と第5連それぞれの「言葉なんかおぼえるんじゃなかった」を解釈した上で、「言葉とは」をテーマに小論文を書き、今後の生活の上で言葉の使い手として考えてほしいことを仲間に提案しましょう。	○ワークシートへの記述 ○観察

＜パフォーマンス課題についての予備的ルーブリック＞

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」について詩の言葉と関連付けながら解釈する中で、作者が「言葉」をどのようなものと捉えているのか、詩の言葉を根拠に説明できている、三角ロジックが成立している。	複数の言葉を結び付けたり、各場面や情景等の描写とを結び付けたりすることによって、新たな意味付けを行い、多様な解釈をしている。また、言葉の使い手として自分の考えを仲間に提案している。	課題を解決するために仲間に積極的に自分の考えを伝え、話し合い、よりよい考えに辿り着こうとしている。
B	「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」について、詩の言葉と関連付けながら解釈する中で、作者が「言葉」をどのようなものと捉えているのか、詩の言葉を根拠に説明できているが、一部、三角ロジックが成立していない部分がある。	複数の場面や情景等を表すいくつかの描写に着目して、多様な解釈をしている。また、言葉の使い手として自分の考えを仲間に提案している。	課題を解決するために仲間と積極的に話し合おうとしている。
C	「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」について、詩の他の言葉とうまく関連付けができていない。または、作者が「言葉」をどのようなものと捉えているのかについて根拠を挙げて説明できていない。	ある場面や心情や行動、情景等を表す描写に着目して、自分なりの解釈をしている。	課題解決に向けて仲間と積極的に話し合うことができない。

(7) 指導計画（全8時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・パフォーマンス課題を知り、疑問や課題解決の順番について話し合い、課題と解決順を決定することで単元の見通しを持つ。	主 知		・課題解決に向けて、学習の見通しを持とうとする。 （ワークシート・観察） ・詩の内容を理解するために必要な課題を設定することができる。 （観察）
2 ～ 6 本時 6	・自分たちが立てた課題について三角ロジックによる読解を通して、言葉の意味や言葉相互のつながりを吟味し、内容を解釈する。	主 思		・課題解決のために、仲間と積極的に話し合おうとする。 （観察） ①「あなた」「きみ」「ぼく」の関係性について。 ②「美しい言葉に復讐され」とは。 ③「血」と「涙」の意味について。 ④「せい」ではなく「おかげ」と表現した意図。 ⑤「ぼく」は「どこ」から帰ってくるのか。 について、三角ロジックを用いて読み取っている。 （ワークシート・観察）
7	・パフォーマンス課題に取り組み、詩の内容について深く考える。	主 知 思	○ ○ ○	・パフォーマンス評価
8	・課題を読み合い、他者の考えに触れる中で、詩の解釈や言葉について考える。	思 主	○	・仲間が書いた文章を読み、作者のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げるとともに、言葉について自分の意見を持つことができる。 （ワークシート）

「重点」は、重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており、観点の略称は以下の通り。

知識・技能…「知」 思考・判断・表現…「思」 主体的に学習に取り組む態度…「主」

重点としていない観点についても、生徒の学習状況进行评估し、教師の指導改善や生徒の学習改善に生かす。

3 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

生徒 32 名(男子 16 名, 女子 16 名)は, 多様な意見や価値観を共有しながら, 意欲的に学習に取り組むことができる。グループ学習では, 個人が意見を出し合う中で, 共感したり反論したりしながら力を合わせて読みを深めることができる。現在までの様々な学習の中でも, 自分たちの疑問を基に課題を設定し, その解決に向けて多様な視点で意見を出し合い読み深めた。

しかし, 学級集団ができあがっていくにつれ, 学級全体の話合いの場で意見を発表する生徒が固定化しつつある。そのため, 多様な意見が出づらくなり, 読み深めるという点で課題が見られるようになってきた。そのような現状を改善するため, 「スパイダー討論」を簡略化し, 「授業でのチーム力を高めるために貢献すること」「仲間の意見について発言すること」を意識させ, 「発言つながりマップ」を示しながら学習を進める。言葉で仲間, 題材とつながり, 言葉でチーム力を高めることを意識しながら, グループや学級全体で生徒の思いを受け止めながら一緒に言葉を紡いでいくことを大事にしていきたい。

(2) 単元について

本単元で扱う教材は田村隆一の『帰途』である。詩の題名は『帰途』であるが, その題名を想起させる言葉として直接出てくるのは最終連, 最終行の「たったひとりで帰ってくる」のみである。「言葉なんかおぼえるんじゃないかった」で始まるこの詩は, 「あなた」「きみ」「ぼく」という言葉に加え「涙」「血」「夕焼けのひびき」等, 抽象的, 比喩的な表現が多くを占めている。そのため, そこに表現されていることは何かを読み取るためには, 言葉そのものが持つ意味に注目し, 言葉と言葉をどう関係づけるかが大きなポイントとなる。これまでの自分の知識や経験を反映させ, 仲間とお互いの考えを伝え合いながら読み深めるところにおもしろさを感じることができる教材である。

また, この詩は言葉を題材としているため, 言葉に対する作者の考えを読み取るとともに, 読み手自身が考えを持ったり, 作者の考えと比較したりすることで更に自身の考えを深めることができる教材である。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

国語科における深い学びとは, 子どもたちが言葉と向き合い, 学習する過程において, 言葉自体やその奥にあるものに対する見方や考え方, 感じ方等が変容し, 新たな価値や認識を得ていくものであると考える。そのため, 次のような手立てを講じる。

ア 学習者による学習課題の設定

主体的に対話し, 仲間と共に学びを深めるために, 言葉や文章に対する生徒の課題意識や目的意識を大切に学習課題の設定を行う。そのために, どの言葉, どの文章, どの連に注目すればよいかを学習者で話し合う。学級全体で, その課題が国語の学習課題として適しているのか, その課題は話し合う意味のあるものか, どの順番で解決していけばパフォーマンス課題の解決につながっていくのか, について生徒たちが検討し, 学習課題と学習計画を決定する。自分の意見と照らし合わせながら仲間の意見を聞くことで, 自分の意見に自信を持ったり, 多面的に課題を見つめ直したりすることができ, 考えをより深めることができると考える。また, 仲間と共に主体的に課題解決することの楽しさや有効性を改めて感じさせたい。

イ 「発言つながりマップ」の活用

スパイダー討論(アレキス・ウィギンズ 提唱)にヒントを得た「発言つながりマップ」に生徒同士の発言のつながりを教師が記録する。学級全体の考えを深めるために自分が貢献できているか, 「個」としてだけでなく「学級全体」で課題を解決しようとしているか, 仲間の意見を受け入れ, そこから自分たちの考えを発展・深化させられているかを見取るものとして使用する。授業の終盤には「班のチーム力」と「学級のチーム力」を 5 段階で評価させ, 理由を発表させる等, 主体的・対話的に学びを深化させるよう工夫する。

4 本時の指導（6／8時間）

(1) 主題 「ぼくはきみの血のなかにたったひとりで帰ってくる」とあるが、「どこ」から「どこ」へ帰ってくるのか。

(2) ねらい

○詩に表れている作者のものの見方や考え方を理解し、自分の知識や経験を踏まえるとともに仲間の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめることができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 詩を音読する。（一斉）	8	○今までに学習した詩の内容を踏まえて音読しよう。	○学習活動に主体的に取り組ませるために、自分たちが考えた問いを基に学習課題を設定する。
2 学習課題を提示する。（一斉）	2	「ぼくはきみの血のなかにたったひとりで帰ってくる」とあるが、「どこ」から「どこ」へ帰ってくるのか。	
3 学習課題について考え、詩を読み深める。 (個人) ↓ (小集団) ↓ (全体) ↓ (個人)	35 (5) (5) (20) (5)	○「どこ」から帰ってくるのか、他の詩の言葉や詩の特徴などを根拠に考えよう。 ・「血のなか」とは「言葉があるがゆえに苦しむ世界」だと考えるから、「苦しまなくても良い、言葉に意味のない世界」から「言葉のある世界」に帰ってくるのだと思う。 ・「血」も「涙」も言葉によって傷つけられたことの象徴だと考えているので、言葉があることは苦しいけれども、「涙のなかに立ちどま」れる良さもあるから「言葉のある世界」に帰るのだと考える。ただ、「たったひとりで」というところはなぜかわからない。 ・前の授業で「一連から五連までで『ぼく』は変化している」という意見があった。二連の内容を「言葉があることによる苦しみから解放されたいぼく」と捉えたので、その「解放されたいと思っていたぼく」から「現実のぼく」に帰ってきたのだと考える。 ○自分の意見とみんなの意見を比較しながら、最終的な自分の意見をまとめよう。	○全体で詩を読み深めるために、自分の発言を仲間の発言につなげるよう促し、それぞれの発言で出てきた詩の言葉を関連付けさせる。 ○話し合いを通して、各自の読取が更に深まるように、根拠を基に主張するよう助言する。曖昧な部分や納得いかない部分に対しては話し合いの中で質問させる。 ◎詩中の言葉や表現を根拠に読み取ったことを伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 (観察・ワークシート記述)
4 本時の学習を振り返る。 ・内容について (個人) ・チーム力について(全体)	5	○本時の話し合いから「言葉」についてどのようなことを考えたか発表しよう。 ・結局、私たちは言葉そのものや言葉の意味から逃れることはできない。 ○今日の授業のチーム力はどれくらいか。 ・「5」。意見を活発に出せ、友達の意見をつなぎながら読み深めることができた。	○次時はパフォーマンス課題に取り組むため、本時の学びを振り返らせる。 ○「発言つながりマップ」を示し、学級全体で主体的な学習を行うことができたか自己評価させる。
授業研究の視点		○学習者の立てた問いで授業を実践することは、詩を読み深め、本質的な問いに迫る、深い学びの実現につながっていたか。 ○授業に「チーム力」を求めることは、主体的・対話的で深い学びにつなげることができる、有効な手段であったか。	